

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
一般教養Ⅱ	選択必修(一般教養)	2単位	1年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
松本メグ未・外部講師	講義・演習	前期・後期		60コマ
目標	<p>・パーソナルカラーの基礎知識(色の名称・はたらきなど)字ひ、生活(生活環境と色のかかわり)や美容技術(メイク・カラーなど)に活かせるよう色の性質を知り、本質を理解させる。※1</p> <p>・美容に関する薬剤、しくみ、はたらき、毛髪理論等、美容業の最新科学知識を理解する。※2</p> <p>※1 JAPCAパーソナルカラー検定試験3級・ ※2 JHCMAヘアケアマイスター(フフイマリ)</p>			
授業の概要	パーソナルカラー		ヘアケアマイスター	
	1	色のはたらき	1	
	2	光と色		
	3	色の表示		
	4	色彩心理		
	5	色彩調和		
	6	色彩効果		
	7	色彩と生活		
	8	ファッション		
	9	インテリア		
	10	パーソナルカラー検定対策		
教科書	<p>・JAPCA 3級対策テキスト カラーチャート</p> <p>・JHCMAテキスト</p> <p>配布プリント</p>			
成績評価法	試験、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
一般教養 I	選択必修(一般教養)	2単位	1年	美容学科
担当教官	授業形態	期間		総コマ数
坂本優子・上田美代子・千村希人	講義	前期・後期		60コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスマナー概要について初歩的な理解を持ち、基本的なサービスを行うのに必要な知識、技能を身につける。 ・社会人としての意識・顧客満足度を高められるよう、話し方・聞き方・来客対応の基本を身につける。 ・ビューティ・コーディネーターとして美容全般のマナー理解し、JBCA3級取得を目指す。 			
授業の概要	サービススタッフの資質		ビューティ・コーディネーター検定概要	
	1	・必要とされる要件		
	2	・従業要件		
	専門知識			
	3	・サービス知識		
	4	・従業知識		
	一般知識			
	5	・社会常識		
	対人技能			
	6	・人間関係		
	7	・話し方		
教科書	JBCAビューティコーディネーター3級テキスト(JBCA発刊) ・ビューティ・コーディネーター3級過去問題集 ・配布プリント			
成績評価法	試験、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
実務実習	選択必修	2単位	1年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
各依頼サロン管理美容師	演習	後期		60コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な美容技術に習熟し、状況に応じて応用できる基礎的能力を身に付けさせ、段階的な技術の種類と過程を知る。 ・サロンの基本的な仕事を理解し、接客業としての来客対応の大切さを知る。 ・相手の立場を理解し、尊重する姿勢を養い、その場に応じ率先して動けるよう実践を通して学ぶ。 			
授業の概要	サロンワーク概要			
	・サロン掃除・技術準備・片付けの手伝い			
	・技術の補助手伝い			
	・タオル・クロス洗濯			
	・お客への雑誌、飲料の手伝い			
	・サロンでの言葉使いの習得			
	・サロンワークの流れの習得			
	・美容基礎技術の習得(教えていただける範囲)			
	教科書			
成績評価法	出勤簿をもとに接客面、技術面、衛生面から総合的に評価する。			
備考				

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
総合実習Ⅱ	選択必修	4単位	2年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
<small>小林正恵・金次郁織・大宮友美子・葛原友子・千村希人・寺下秋代・外部講師</small>	演習	前期・後期		120コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・習得した基礎的な専門知識や技術を基に、各自の想像力と個性をさらに発展させ、感性を養い身に付けさせる。 ・常に新しい技術の吸収を自主的に行い、自ら新しい技術の開発・工夫に努めるよう習慣付けさせ、技術者として不断の改善と努力精進が重要であることを認識させる。 ・国家試験実技・学科共、個々人に合わせ理解させる。 			
授業の概要	1	卒業制作(人体によるグループ作品制作発表)		
		・テーマに基づき、基礎的技術(セット・カット・パーマ・ブリーチ・カラー・メイク・ネイル)と応用技術を用い、トータル的に作品を仕上げ発表する。		
	2	国家試験対策		
教科書	配布プリント 改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説			
成績評価法	作品、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
総合実習 I	選択必修	2単位	1、2年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
大宮友美子・原田賢人・外部講師	演習	前期・後期		60コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・習得した基礎的な専門知識や技術を基に、各自の想像力と個性をさらに発展させ、感性を養い身に付けさせる。 ・基礎技術を学び、常に新しい技術の吸収を自主的に行い、自ら新しい技術の開発・工夫に努めるよう習慣付けさせ、技術者として不断の改善と努力精進が重要であることを認識させる。 			
授業の概要	1	修了制作(ウィッグによる1年生最終仕上げ作品制作、作品ひとり1台)		
		・テーマに基づき、基礎的技術(カット・パーマ・ブリーチ・カラー)を用い作品を仕上げる。		
	2	カラーデザイン I (基礎の技術を学ぶ。)		
		・ヘアカラー基礎知識		
		・グレーカラー		
		・ファッションカラー		
		・人頭カラー		
	教科書	配布プリント		
成績 評価法	作品、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
総合基礎	選択必修	4単位	1、2年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
※賀義将・藤田善洋・原田賢人・外部講師	演習	前期・後期		120コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な専門知識や技術を、広く学び、高度専門技術の礎を身につける。 ・基礎技術を学び、常に新しい技術の吸収を自主的に行い、自ら新しい技術の開発・工夫に努めるよう習慣付けさせ、技術者として不断の改善と努力精進が重要であることを認識させる。 			
授業の概要	基礎カット			
	1	・実習基礎カット(ワンレングス、グラデーション、レイヤー)ベースに、展開図、応用力の基礎		
		身につける。		
	ネイル3級			
	1	ネイルの歴史		
	2	爪の構造と働き		
	3	ネイルのため皮膚科学		
	4	爪の病気とトラブル		
	5	消毒法		
	6	香粧品学		
	1	プレマニキュア		
	2	ネイルケア (手指消毒、ポリッシュオフ、ファイリング、キューティクルクリーン、カラーリング)		
	メイク3級			
	1	メイクアップ概論		
	2	皮膚生理学		
	3	スキンケア		
	5	ベースメイク(アイブロウ・リップ・フラッシュオン)		
	6	3級検定対策(トータルメイク)		
教科書	配布プリント			
	「JNAテクニカルシステムベーシック」 NPO法人日本ネイリスト協会			
成績 評価法	作品、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
トータルビューティ(選択)	選択	4単位	1、2年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
西脇末美・本多雅幸・山村京子・井原苑子・楠愛美	演習	前期・後期		120コマ
目標	<p>・必修課目において習得した基礎的な専門知識や技術を基に、サロンワークに準じた高度なメイク・専門的な技術を身に付けさせ、美容デザインの最新の国際的動向について学ばせる。</p> <p>・常に新しい技術の吸収に心がけ、自ら新しい技術の開発に努める姿勢を習慣付けさせ、専門技術者としての心構えを身に付けさせる。</p>			
授業の概要	メイクⅡ		ブライダルコーディネイト	
	1	・ベースメイク	19	・ブライダル業界について
	2	・ポイントメイク2		ブライダルヘアメイクの仕事
	3	・印象別メイクソフトな印象	20	・セット・メイク展示
	4	・印象別メイクシャープな印象		セット・メイク実演デモンストレーション
	5	・印象別メイク 1	21	・ブライダルメイク実際
	6	・印象別メイク 2		セット・メイク・ヘアー・衣装合わせ
	7	・モデルにあった印象メイク 1	エステティックⅡ	
	8	・モデルにあった印象メイク 2	22	・エステ基礎技術Ⅱ
	9	・2級対策模擬 1		・フェイシャル・ボディーケアⅡ
	10	・2級対策模擬 2		・エステティック相モデル実習
	アイラッシュ		・エステティック総まとめ	
	11	・アイラッシュ基礎概論・デモンストレーション		
	12	・アイラッシュ技術理論Ⅰ		
	13	・アイラッシュ基礎技術Ⅰ		
	14	・アイラッシュテクニック総まとめ		
	ヘアアレンジ			
	15	・ベーシックスタイル		
	16	・デザイン実習		
17	・テクニック実習			
18	・サロンスタイルアドバンス			
教科書	<p>「美容技術理論 1、美容技術理論 2」日本理容美容教育センター</p> <p>「美容実習 1、美容実習 2」日本理容美容教育センター</p> <p>JMAメイクテキスト・プリント</p>			
成績評価法	作品、平常点、出席率で総合的に評価する。			
備考				

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
カットクリエイティブ(選択)	選択	4単位	1、2年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
藤田善洋・山村一志・原田賢人・竹内正人・非常勤講師	演習	前期・後期		120コマ
目標	<p>・必修課目において習得した基礎的な専門知識や技術を基に、サロンワークに準じた高度なカット・カラー、ヘッドスパ技術の技術を身に付けさせ、最新のトレンド、技術について字はせる。</p> <p>・常に新しい技術の吸収に心がけ、自ら新しい技術の開発に努める姿勢を習慣付けさせ、専門技術者としての心構えを身に付けさせる。</p>			
授業の概要	ヘアデザインⅡ			
	1	・ロングウルフカット		
		パーマ、ブリーチ、カラー		
	2	・トライアングルテクニック(ドライカット)		
		部分カラー、ブリーチ、仕上げ		
		個人発表		
	3	・ボブスタイルにフォワードグラデーション		
		カット、ブロー仕上げ、ドライカット		
	4	・ショートカット		
		カット、ブロー仕上げ、ドライカット		
	5	・ウェーブスタイル(モード系・キュート系)		
		カット、ブロー・アイロン仕上げ		
	6	・ショートウェーブ		
		カット、仕上げ、ドライカット		
	7	・刈り上げ、ボックスボブ、ショート刈り上げスタイル		
	8	・ウィッグをしようした自主制作、発表		
		フォト技術		
	9	・写真とは……		
	10	・撮影・写真加工デモンストレーション		
	11	・撮影の実際Ⅰ		
12	・撮影の実際Ⅱ、まとめ			
	ヘアカラー(1年生のベーシックカリキュラムを基礎としたステップアップ)			
13	・フォイルワーク基礎			
14	・デザインカラー			
	ヘッドスパ			
	・ヘッドスパ応用Ⅰ			
	・ヘッドスパ、まとめ、			
教科書	配布プリント			
成績評価法	作品、平常点、出席率で総合的に評価する。			
備考				

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
美容実習	必修	4単位	1、2年	美容学科
担当教官	授業形態		期間	総コマ数
西脇末美・糸賀義将・小林正恵・金次郁織・大官友美子・千村希人	講義		前期・後期	120コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術を習得するため、基本的操作を確実に身に付けさせるとともに、これからの基本的操作を適宜組み合わせることで完成させる技術を習得させる。 ・美容所における衛生管理の重要性を認識させ、器具の消毒などの適切な実施方法を身に付けさせる。 ・個々の客の要望に応じた美容技術を確実に提供できるよう総合的な技術の基礎を身に付けさせる。 			
授業の概要	美容実習 I		着付けの理論と技術	
	1	1章 シャンプーイング	10	着付けの基礎
	2	2章 ヘアカッティング	11	花嫁化粧着付け
	3	3章 パーマネントウェービング	ヘアアレンジ	
	4	4章 ヘアセッティング	12	1、アップスタイルの基礎知識
	5	5章 ヘアカラーリング	13	2、デザイン実習
	美容実習 II		14	3、テクニック実習
	6	6章 エステティック	ベーシックカット	
	7	7章 ネイル技術	15	1、カットの基礎知識
	8	8章 メイクアップ	ワンレングスカット	
	9	9章 着付け技術	グラデーションボブカット	
			レイヤーカット	
	教科書	「美容実習 1、美容実習 2」日本理容美容教育センター 配布プリント、		
成績 評価法	試験、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
運営管理	必修	1単位	1年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
林 智章	講義	前期・後期		30コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・経営管理の基本的事項を学習することによって、美容業における科学的な経営管理手法の重要性を認識させ、自己研修・学習・従業員指導など美容所の経営に役立たせる。 ・美容業において、適切な接客態度がいかに重要であるかを自覚させるとともに、消費者対応の基本を学ばせ、実践する能力を身に付けさせる。 			
授業の概要	第1編 経営者の視点			
	1	第1章 経営とは・経営者とは		
	2	第2章 理容業・美容業の経営について		
	3	第3章 接客の計画・実践		
	第2編 人という資源 従業員としての視点			
	4	第1章 人という資源		
	5	第2章 健康・安全な職場環境と実現		
	6	第3章 従業員としての視点から		
	第3編 顧客のために			
	7	第1章 サービス・デザイン		
	8	第2章 マーケティング		
	9	第3章 サービスにおける人の役割		
教科書	「運営管理」日本理容美容教育センター 配布プリント			
成績 評価法	試験(レポート)、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
美容技術理論	必修	2単位	1、2年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
大宮友美子・寺下秩代	講義	前期・後期		60コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・美容業の使命の1つが、より優れた人間美の創造、実現にあることをよく認識させ、この使命の達成のために必要な美的感覚を身につけ、これを洗練し、芸術的な表現力と鑑賞力を養う。 ・美容の業務を全うするためには、確かな技術力を身に付けるとともに、豊かな感性に裏打ちされた優れた表現力を養うことが必要であることを自覚させる。 			
授業の概要	第4章 ファッション文化史 西洋編			
	13	現代Ⅳ		
	14	現代Ⅴ		
	15	現代Ⅵ		
	16	現代Ⅶ		
	第5章 礼装の種類			
	1	和装の礼装		
		洋装の礼装		
	教科書	「文化論」日本理容美容教育センター 配布プリント		
成績評価法	試験、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
美容技術理論	必修	2単位	1、2年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
大宮友美子・寺下秩代	講義	前期・後期		60コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・美容業の使命の1つが、より優れた人間美の創造、実現にあることをよく認識させ、この使命の達成のために必要な美的感覚を身につけ、これを洗練し、芸術的な表現力と鑑賞力を養う。 ・美容の業務を全うするためには、確かな技術力を身に付けるとともに、豊かな感性に裏打ちされた優れた表現力を養うことが必要であることを自覚させる。 			
授業の概要	第3章 ファッション文化史 日本編			
	9	現代Ⅲ		
	10	現代Ⅳ		
	第4章 ファッション文化史 西洋編			
	1	古代エジプト		
	2	古代ギリシャ・ローマ		
	3	古代ゲルマン		
	4	中世ヨーロッパ		
	5	近世Ⅰ		
	6	近世Ⅱ		
	7	近世Ⅲ		
	8	近代Ⅰ		
	9	近代Ⅱ		
	10	現代Ⅰ		
11	現代Ⅱ			
12	現代Ⅲ			
教科書	「美容技術理論 1、美容技術理論 2」日本理容美容教育センター 配布プリント			
成績 評価法	試験、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
美容技術理論	必修	2単位	1、2年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
大宮友美子・寺下秩代	講義	前期・後期		60コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・美容業の使命の1つが、より優れた人間美の創造、実現にあることをよく認識させ、この使命の達成のために必要な美的感覚を身につけ、これを洗練し、芸術的な表現力と鑑賞力とを養う。 ・美容の業務を全うするためには、確かな技術力を身に付けるとともに、豊かな感性に裏打ちされた優れた表現力を養うことが必要であることを自覚させる。 			
授業の概要	第1章 総論			
	1	総論		
	第2章 日本の理容業・美容業の歴史			
	1	理容業・美容業の発生		
	2	江戸時代の理容業・美容業		
	3	近代の理容業・美容業		
	4	現代の理容業・美容業		
	第3章 ファッション文化史 日本編			
	1	縄文・弥生・古墳時代		
	2	古代		
	3	中世		
	4	近世Ⅰ		
	5	近世Ⅱ		
	6	近代		
	7	現代Ⅰ		
8	現代Ⅱ			
教科書	「美容技術理論 1、美容技術理論 2」日本理容美容教育センター 配布プリント			
成績 評価法	試験、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
美容技術理論	必修	5単位	1、2年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
美容学科教員・	講義	前期・後期		150コマ
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・美容技術についての知識を衛生的、能率的に実践する態度と習慣とを養い、工夫と創造の能力とを身に付けさせる。 ・美容器具の正しい取扱いの方法と美容の基礎的技術とを作業の実際に即して指導し習熟させる。 ・優れた美容技術は、経験によってだけ得られるものではなく、科学的合理的な方法によって把握されなければならないことを理解させる。 			
授 業 の 概 要	美容技術理論 1			
		序章 美容技術理論を学ぶにあたって		
	1	美容用具		
	2	シャンプーイング		
	3	ヘアデザイン		
	4	ヘアカッティング		
	5	パーマネントウェービング		
	6	ヘアセッティング		
	7	ヘアカラーリング		
		美容技術理論 2		
	8	エステティック		
	9	ネイル技術		
	10	メイクアップ		
	11	日本髪		
12	着付けの理論と技術			
教科書	「美容技術理論 1、美容技術理論 2」日本理容美容教育センター 配布プリント			
成績 評価法	試験、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
化粧品化学	必修	2単位	1、2年	美容学科
担当教員	授業形態		期間	総コマ数
梅村英理世	講義		前期・後期	60コマ
目標	<p>・美容の業務を安全かつ効果的に行うために、正確な科学的知識と合理的思考に裏付けられた美容器具や化粧品の適正な取り扱いが不可欠であることを理解させる。</p> <p>・物理・化学の基本原則についての理解とその応用能力とが、美容師にとって、極めて重要な意義を持つものであることを理解させ、美容器具や化粧品の合理的な取り扱いに習熟させる。あわせて、美容器具や化粧品による危害を防止するための使用上の注意を学ばせる。</p> <p>・化粧品は、美容技術を行う上で欠くことのできないものである反面、その使用方法を誤れば重大な健康被害を起こすおそれがあるものであることから、その化学的な性質を理解させるとともに、正しく使用するために正確な知識と適正な技術とを身につけることが重要であることを認識させる。</p>			
授業の概要	第1編 物理		第8章 燃焼と消化器	
	第1章 力		27	1、燃焼の条件と消火
	1	1、力とそのはたらき	28	2、消火器の種類と使い方
	2	2、刃物と力	29	3、石油燃料
	第2章 熱		第3編 化粧品化学	
	3	1、温度と熱	第1章 化粧品概論	
	4	2、熱の移動	30	1、化粧品の社会的意義と品質特性
	5	3、物質の状態の変化	31	2化粧品の規制
	第3章 光		第2章 化粧品用原料	
	6	1、光の進み方	32	1、水性原料
	7	2、光の色と明るさ	33	2、油性原料
	第4章 電気		34	3、界面活性剤
	8	1、電気の基本的性質	35	4、高分子化合物
	9	2、電流の化学作用と電池	36	5、色材
	10	3、電気のエネルギー	37	6、香料
	11	4、電流と磁界	38	7、その他の配合成分
	12	5、理容・美容と電気機器	第3章 基礎化粧品	
	13	6、電気と電気機器の使用上の注意	39	1、皮膚清浄用化粧品
	第2編 化学		40	2、化粧水
	第1章 物質の構造		41	3、クリーム・乳液
	14	1、物質の構成	42	4、その他の基礎化粧品
	15	2、化学結合	第4章 メイクアップ用化粧品	
	16	3、物質の量と変化	43	1、メイクアップ用化粧品の種類と剤形
	第2章 溶液とコロイド		44	2、ベースメイクアップ化粧品
	17	1、溶液とその性質	45	3、ポイントメイクアップ化粧品
	18	2、コロイド	第5章 頭皮・毛髪用化粧品	
第3章 酸と塩基と塩		46	1、頭皮や毛髪の性状	
19	1、酸と塩基の性質	47	2、シャンプー剤	
20	2、中和反応と塩の生成	48	3、スタイリング剤	
第4章 酸化・還元反応		49	4、パーマネットウェーブ用剤	
21	1、酸化と還元	50	5、染毛剤	
第5章 有機化合物		51	6、育毛剤	
22	1、低分子化合物	第6章 その他の化粧品		
23	2、高分子化合物	52	1、芳香製品	
第6章 水		53	2、特殊化粧品	
24	1、硬水と軟水の特徴	第7章 化粧品の取り扱い		
第7章 金属		54	1、化粧品の安定性と取り扱い上の注意	
25	1、金属の性質と合金	55	2、化粧品の安全性と取り扱い	
26	2、鉄と刃物			
教科書	「美容物理、化学・化粧品化学」日本理容美容教育センター配布プリント			
成績評価法	試験、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
美容保健	必修	3単位	1、2年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
岡野伸哉・千村希人	講義	前期・後期		90コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・美容技術の基礎となる人体組織、特に皮膚及び毛髪などの皮膚付属器官の構造と機能に関する科学的、系統的な知識の習得をさせる。 ・美容の業務を安全かつ効果的に行うために、皮膚、毛髪などに関する正確な科学的知識が不可欠であることを理解させる。 			
授業の概要	第1編 人体の構造及び機能			
	1	第1章 頭部、顔部、頸部の体表解剖学		
	2	第2章 骨格器系		
	3	第3章 筋系		
	4	第4章 神経系		
	5	第5章 感覚器系		
	6	第6章 血液・循環器系		
	7	第7章 呼吸器系		
	8	第8章 消化器系		
	第2編 皮膚科学			
	9	第1章 皮膚の構造		
	10	第2章 皮膚付属器官の構造		
	11	第3章 皮膚の循環系と神経系		
	12	第4章 皮膚と付属器官の生理機能		
13	第5章 皮膚と付属器官の保健			
14	第6章 皮膚と付属器官の疾患			
教科書	「保健」日本理容美容教育センター 配布プリント			
成績 評価法	試験、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
衛生管理	必修	3単位	1、2年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
岩本美江子・前田 健	講義	前期・後期		90コマ
目標	<p>・公衆衛生の意義と本質とを明らかにすることによって、美容師が公衆衛生の維持と増進とについて重大な責務を担わなければならない理由は何かを十分に理解させ、特に、環境衛生の意義と目的について、美容師の業務と関連付けながら具体的に理解させる。</p> <p>・美容師の業務内容と感染症予防、環境衛生の保持との具体的な関連付けを重視して、美容における衛生措置の重要性について理解させる。美容器具などの消毒法は、美容業務の衛生性を担保する上で最も重要な技術であるので、その意義と原理について十分に理解させ、適正な実施方法を身に付けさせる。</p>			
授業の概要	1編 公衆衛生			
	第1章 公衆衛生の概要			
	1	公衆衛生の意義と課題		
	2	公衆衛生発展の歴史		
	3	理容師・美容師と公衆衛生		
	4	保健所と理容業・美容業		
	第2章 保健			
	1	保健		
	2編 環境衛生			
	第1章 保健			
	1	環境衛生の概要		
	2	空気環境		
	3	衣服・住居の衛生		
	4	上・下水道と廃棄物		
	5	衛生害虫とネズミ		
	6	環境保全		
	3編 感染症			
	第1章 感染症の総論			
	1	人と感染症		
	2	病原微生物		
	3	感染症の予防		
	第2章 感染症の各論			
	1	理容・美容と感染症		
	2	主な感染症		
	3	具体的な対策の例		
	4編 衛生管理技術			
	第1章 消毒法総論			
	1	消毒とは		
	2	消毒の意義		
	3	理容・美容の業務と消毒との関係		
	4	消毒法と適用上の注意		
	第2章 消毒法各論			
	1	理学的消毒法		
2	化学的消毒法			
3	優れた消毒法とその実施上の注意			
第3章 消毒法実習				
1	各種消毒薬			
2	理容所・美容所の消毒の実態			
3	理容所・美容所の消毒法の実際			
5編 衛生管理の実践例				
第1章 理容所および美容所における衛生管理要領				
1	第1 目的～第4 衛生的取扱い等			
2	第5 消毒～第6 自主的管理体制			
第2章 理・美容所の自主管理点検表				
教科書	「衛生管理」日本理容美容教育センター 配布プリント			
成績評価法	試験、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			

授業科目	必修・選択	単位数	対象学年	学科
関係法規・制度	必修	1単位	2年	美容学科
担当教員	授業形態	期間		総コマ数
原田 純一郎	講義	前期		30コマ
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・美容師の業務に関する衛生法規・制度及び消費者保護法規・制度について、正しい知識を習得しておかなければならない必要性を理解させ、あわせて、公衆衛生を担う美容師の社会的責務、職業倫理について、自覚を促す。 ・美容の業務に関する規定内容を性格に理解させるとともに、衛生法規が、美容業を行う場合の指針として有する意義を把握させる。 			
授業の概要	第1章 法制度の概要			
	1	社会生活における法の役割		
	2	法の形式		
	3	衛生法規の概要		
	4	理容師法・美容師法と付属法令		
	第2章 衛生行政の概要			
	1	衛生行政の意義と歴史		
	2	衛生行政の分類と生活衛生行政のI		
	3	衛生行政を担う行政機関		
	第3章 理容師法・美容師法			
	1	目的		
	2	用語の定義		
	3	人に関する規定		
	4	施設に関する規定		
	5	立入検査と環境衛生監視員		
	6	違反者等に対する行政処分		
	7	罰則		
第4章 関連法規				
教科書	「関係法規・制度」日本理容美容教育センター 配布プリント			
成績 評価法	試験、平常点、出席率から総合的に評価する。			
備考	参考書などは授業で随時紹介する。			